

1 単元名 ふくし～わたしたちにできること～

【何ができるようになるか】(単元の目標)

「自分を高める」

- ・活動の振り返りをする中で、自分のよさに気づき、次への活動につなげることができる。
(自分を発揮する力)

「人とよりよく関わる」

- ・手話の会の方や耳が聞こえにくい人との交流を通して、相手の立場や気持ちを考えた関わり方を考えることができる。(他者意識)
- ・手話の会の方や耳が聞こえにくい人との交流を通して、自分の考えを伝えるとともに、相手の意見を聞くことができる。(多様性の尊重)

2 指導の構想

(探究課題) 手話の会の方や耳が聞こえにくい人との交流を通して、耳が聞こえにくい人とよりよく関わるためにはどうしたらよいかを考え、まわりの人や自分の関わり方を振り返りながら、よりよい生き方を探究する。

本単元は、福祉教育教材『ともに生きる』や手話の会の方との交流を通して、「自分を高める」「人とよりよく関わる」方法を身につける。主な内容は、人と人とのつながりが希薄化している現状や課題、高齢者や障がいがある人の特性や生活方法、耳が聞こえにくい人への関わり方、ユニバーサルデザインやバリアフリー、ボランティア活動の取り組みなどがある。これらは、子どもがお互いを正しく理解し、ともに助け合い、支え合って生きようとする態度を育むうえで意義深い。

【実施するためには何が必要か】(人・もの)

- ・久山町社会福祉協議会との連携
- ・手話の会の方との連携

【道徳との関連】

B-(6) 親切、思いやり「おばあちゃんのコースター」

【どのようにして学ぶか】

総合の単元の流れ [単元計画 (46時間)]

(1) 目標をもつ (19時間)

まず、自分の身の周りには様々な人がいることや高齢者や障がいがある人の存在に気づくことができるように、福祉教育教材「ともに生きる」を活用して、読み物資料やデータをもとに理解を深める。自分たちにできることを見つけるという目標をもつ。

(2) 実践する (18時間) 【本時含む】

次に、手話の会の方との交流会を通して、耳が聞こえにくい方と出会い、相手の立場や気持ちを考えた関わり方を考えたり、実践したりする。活動の振り返りを行い、自分のこととして考えることで、支え合って生きることの大切さを実感する。

(3) 振り返る (9時間)

最後に、みんなにとってやさしいまちづくりの工夫(ユニバーサルデザインやバリアフリー)について考えを深めたり、自分たちにできること(ボランティア活動)を考えたりする。学習したことをまとめ、発表をする。

【児童の実態】

本学級の児童は、第2学年「うごくうごくわたしのおもちゃ」の学習において、自分たちが作ったおもちゃで1年生と楽しく遊びたいという思いをもち、1年生の立場に立って、おもちゃ遊びのルールを考えることができた。また、1年生に楽しんでもらえるように活動を工夫したり、ルールを丁寧に教えたりすることもできている。

第3学年5月に、福祉教育教材「ともに生きる」を活用して「今、自分がどんな人たちとつながっているか」ということを考えさせた。『わたしのつながりマップ』をつくったところ、家族や身近な友達の名前を書いた児童が多く、地域やまわりの人に対しては関心が薄いことが分かった。

3 本時

(1) 目標

- 模擬体験を通して、耳が聞こえにくい人とのよりよい関わり方を考え、自分たちにできることを話し合うことができる。

(2) 準備

- ①2年生時の交流の写真 ②学習プリント ③耳栓 ④透明マスク ⑤紙とペン

(3) 展開

過程	学習活動・児童の反応	指導の手立て（○）と評価（◇）
導入 5分	1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。	○ めあてをつかませるために、2年生の時の写真を提示し、相手の立場に立って説明の仕方を工夫したことを想起させる。
	めあて 耳が聞こえにくい人となかよくなるために、自分にできるくふうを見つけよう。	
展開 30分	2 グループで模擬体験を行う。 (1) 3～4人グループで、1人が耳が聞こえにくい人の役を演じ、今まで練習した指文字で自己紹介をし合ったり、テーマに沿って一緒に会話したりする。 (2) 耳が聞こえにくい人の気持ちを発表する。 ・何を言っているのか分からなかった。 ・聞こえにくくて、不安になった。 ・誰が話しているのか分からない。 ・口もとがマスクで見えない。 3 自分たちにできるくふうを考え、話し合う。 (1) 自分にできる工夫を考えて、プリントに書く。 (2) 考えたことを全体で発表する。 ・相手に見えるように、必ず目の前で話す。 ・誰が話しているか分かるように、手をあげる。 ・口もとが見えるように、透明のマスクを作る。 ・目で見て分かるように、紙に書いたり、カードや写真を準備したりする。 ・ゆっくり、口を大きく開けて伝える。	○ 相手の立場に立って考えることができるように、全員が耳が聞こえにくい人の役を体験できるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">(各テーマ1分ずつで役を交代) ・自己紹介 ・好きなスポーツ ・好きな食べ物 ・しりとりゲーム</div> ○ 何のためにその工夫が必要なのかを明確にさせるために、プリントにそう考えた理由を書かせる。 ○ 「見えるようにする工夫」や「相手の気持ちを考えた工夫」が大切だということに気づかせるために、助けてあげようとする視点ではなく、一緒に楽しむためにはどんな工夫ができるかを考えさせる。
終末 10分	4 本時学習について考えたことを学習プリントに書き、振り返る。 ・指文字だけで伝わらないときには、口の動きでゆっくり伝えることができるようにしたい。 ・紙に書いたものも用意して、自分の名前を覚えてもらえるようにしたい。 ・指文字や手話をもっと練習して、交流会でたくさんお話ができるようにしたい。	○ 自分たちのよさに気づくことができるように、社会福祉協議会の方に来ていただき、相手の立場に立って考えている姿を評価していただく。 ◇ 耳が聞こえにくい人となかよくなるために、どのように関わりたいかを明確にできたか。〈学習プリント〉